

サムエル
聖徒伝 82

「願いが叶えば 幸せか？」

I サムエル記8～10章 油注ぎ サウル王の誕生

【イスラエルを覚えて祈ろう】

■現状の確認。繰り返されてきたこと。

平和になる ➡パレスチナのテロ ➡報復 ➡イスラエルへの批難
テロリスト国家の現実。平和になると困る人々。

■イスラム教の本質を理解しよう。

聖典に明記され、根本的教理として理解されている、聖戦。
ハマスの憲章に記された、イスラエルの壊滅。

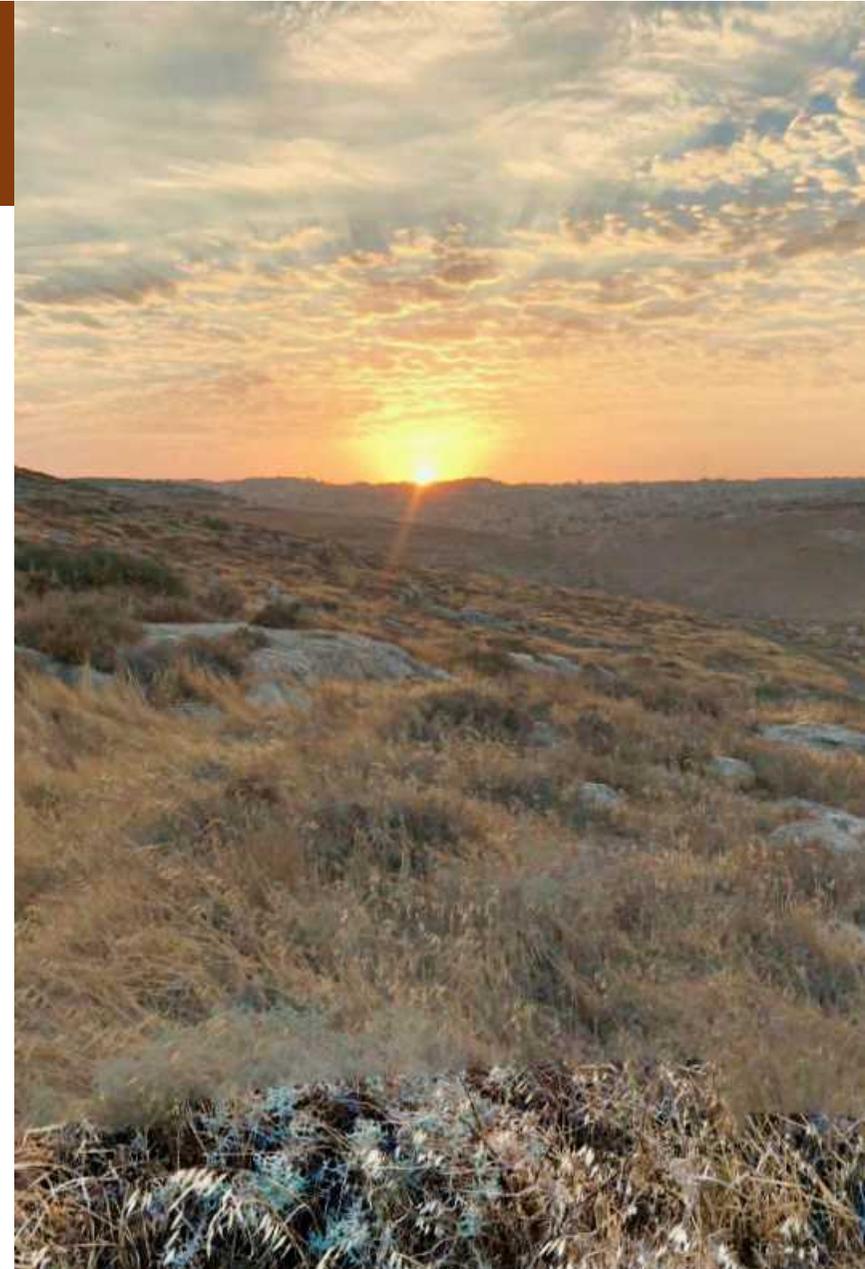
■聖書が教えるイスラエルの現状。

神への反抗の末に失われた約束の地の占有権。➡共生は現実。
不信仰のままの帰還の結果としての現代イスラエル。
大患難時代に向けて、強まる影響力と高まる反ユダヤ主義。

■私たちが今、覚えて祈るべきは、イスラエルとパレスチナの救い。

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 王を求めた不信仰の民 8章
- II. サウルとサムエル 9章
- III. サウルの油注ぎ 10章
- IV. まとめと適用
主の選びに答えて踏み出せ



【無垢の時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

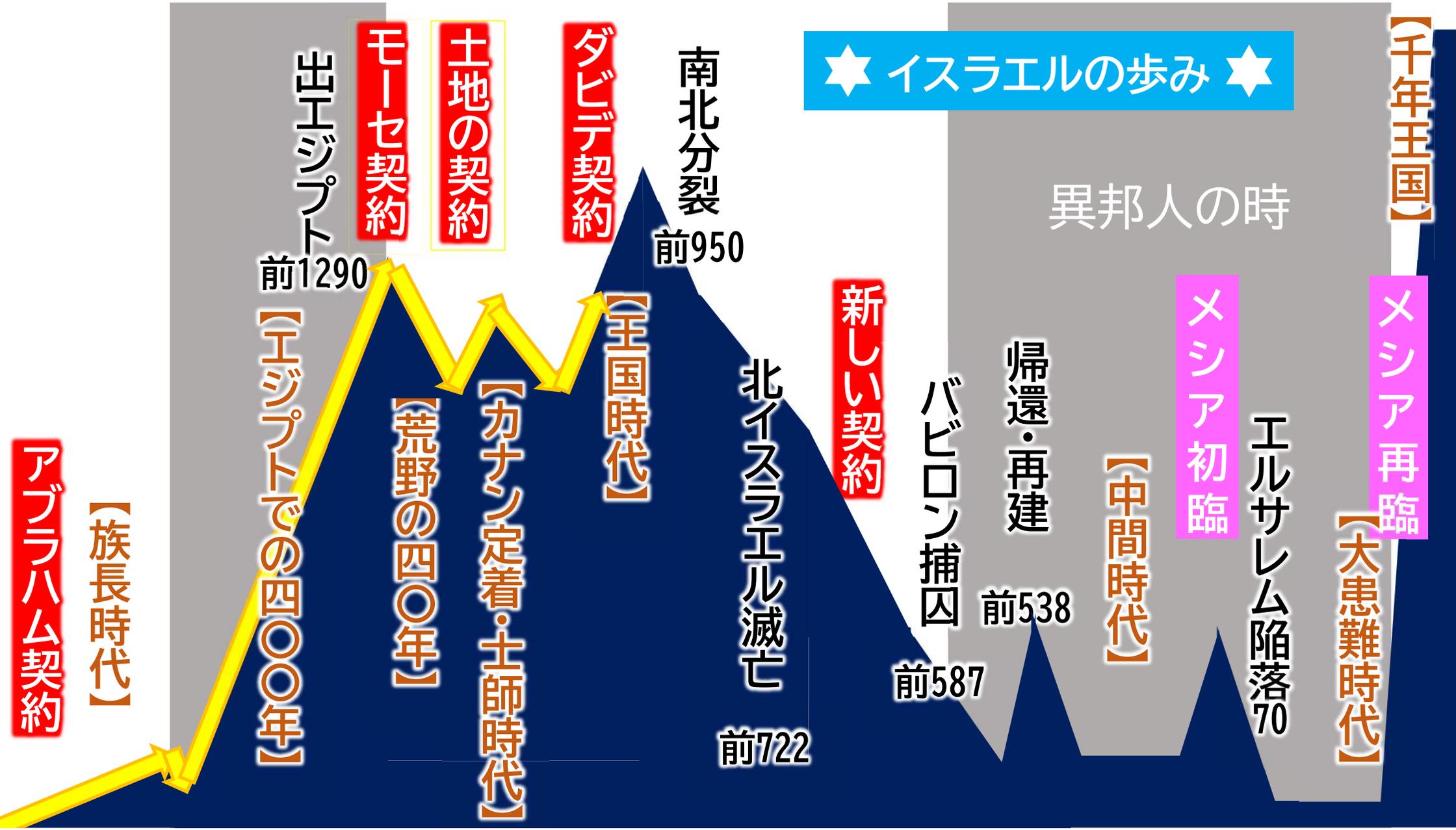
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂
前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落70

【大患難時代】

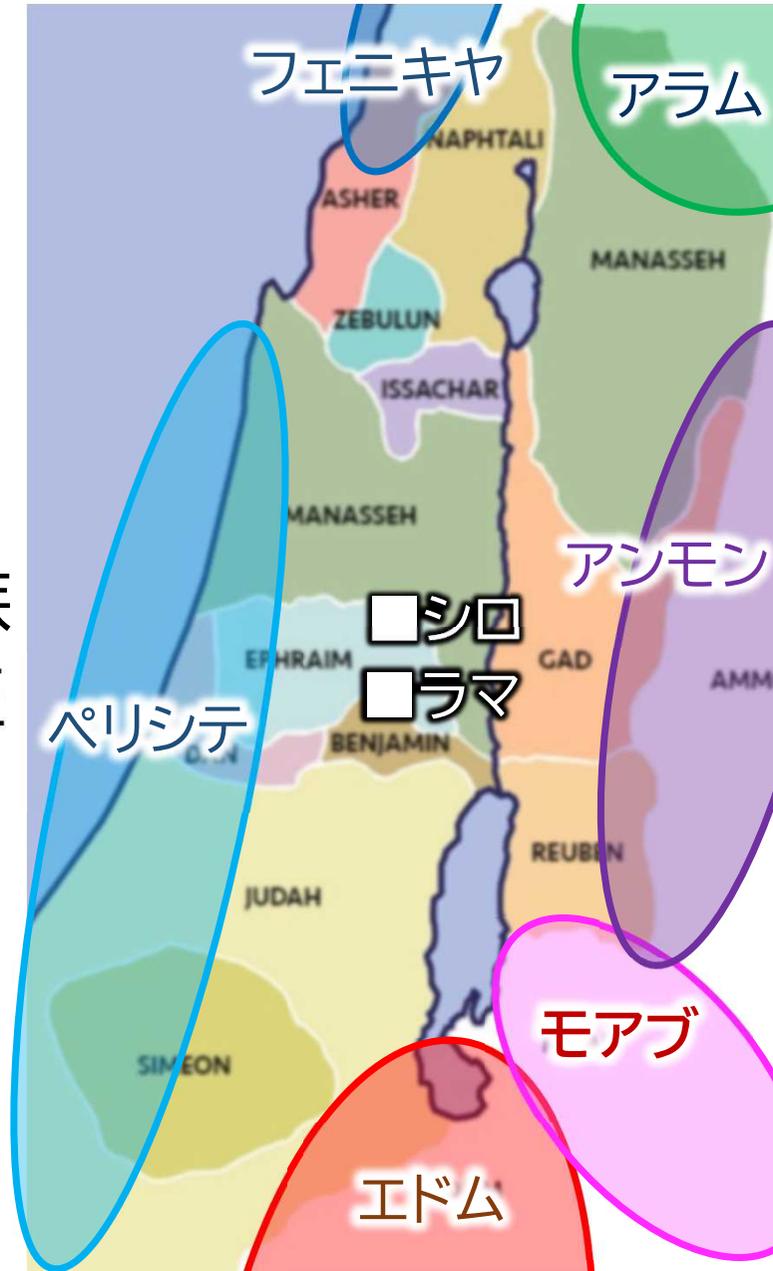
メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

【最後の士師サムエル】

- 約束の地で相続地を手に入れたイスラエル。しかし、未征服の地も多く残り、カナン人の偶像礼拝が、たびたび悪影響をもたらした。
- 混沌の時代に主が立てた士師たちは、一部族のリーダーに過ぎず、全イスラエルを治める王は、まだいなかった。
- ついに誕生するイスラエルの王。その準備をしたのが、最後の士師とも言われるサムエル。



サムエル記 第一

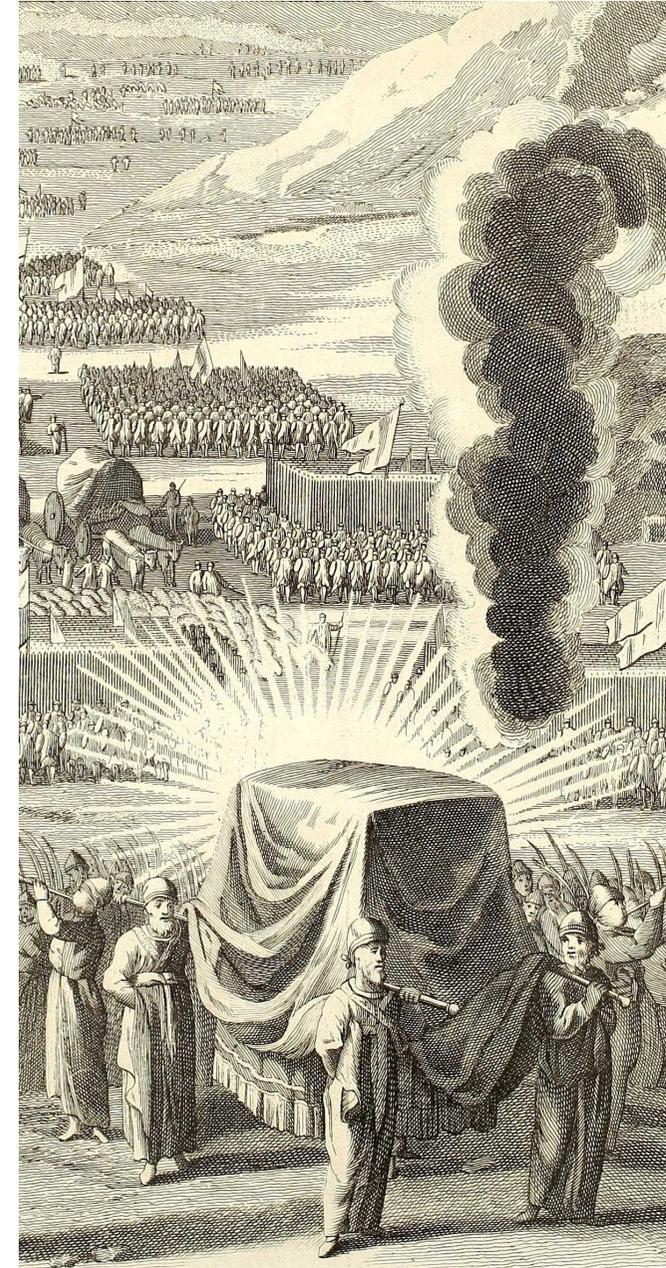
士師時代
王政時代

サムエル	1:1~2:11	サムエルの誕生
	2:12~3:21	サムエルの召命
	4:1~7:17	奪われた契約の箱
	8:1~9:27	後継者不在 王を求める民
サウル	10:11~11:15	油注ぎ
	12:1~25	士師サムエルの民への告別
	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
	16:14~23	王宮での奉仕
	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
	18:1~30	サウルの娘ミカルとの結婚
	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
	31:1~13	サウルの死



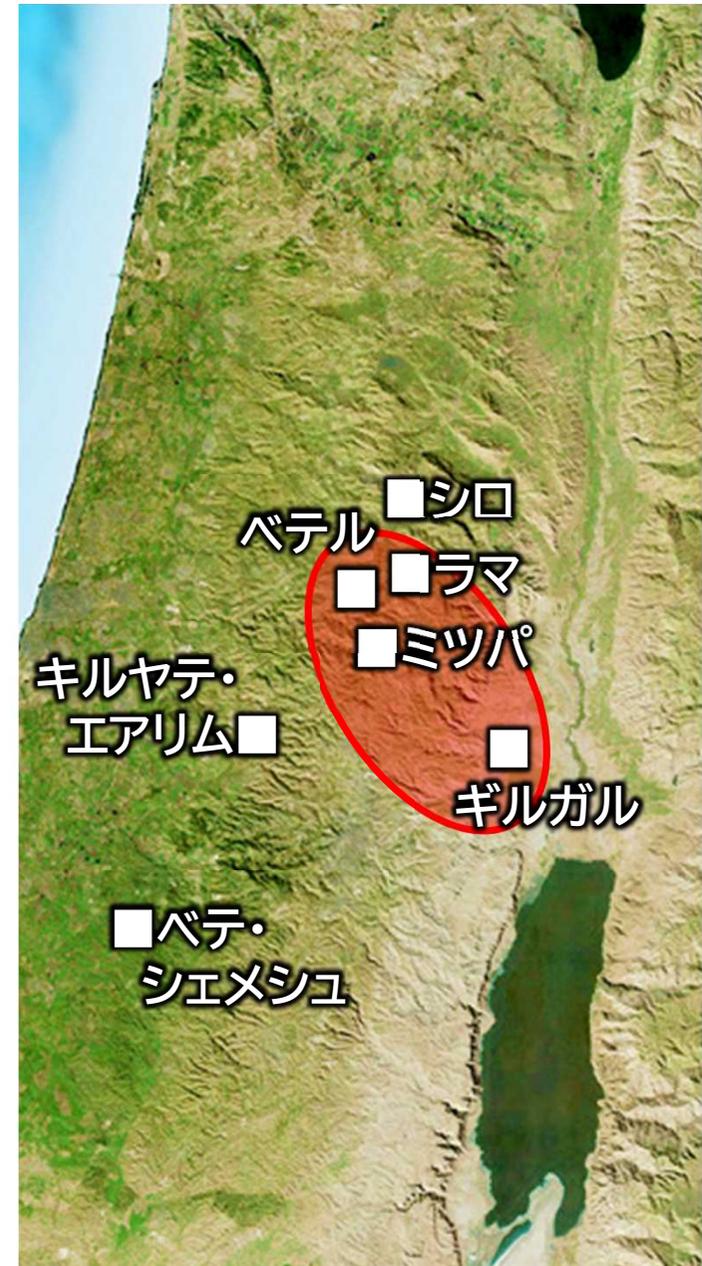
【契約の箱の強奪と帰還】 I サムエル4～7章

- 民の不信仰により、ペリシテに奪われた神の箱。しかし、主ご自身がペリシテの町々を打たれた。
- イスラエルの神を恐れたペリシテは、供物と共に神の箱を返還した。
- 喜んだイスラエルだったが、神の箱に不遜を働いた者たちが打たれてしまう。
- 神の箱は、ダビデの時までキルヤテ・エアリムにとどまった。



【士師サムエルの統治】

- サムエルに促されて、イスラエルは悔い改め、偶像を打ち壊し、主にはじめて立ち返った。
- 士師サムエルは40年間、イスラエルをさばいた。
- サムエルは、約束の地の核心部を巡り治めた。
- サムエルが士師として治めた間、強敵ペリシテの働きは神に抑えられていた。





I. 王を求めた不信仰の民

I サムエル記8章

エフライムの山地

【サムエルの息子たち】 I サムエル8:1~3

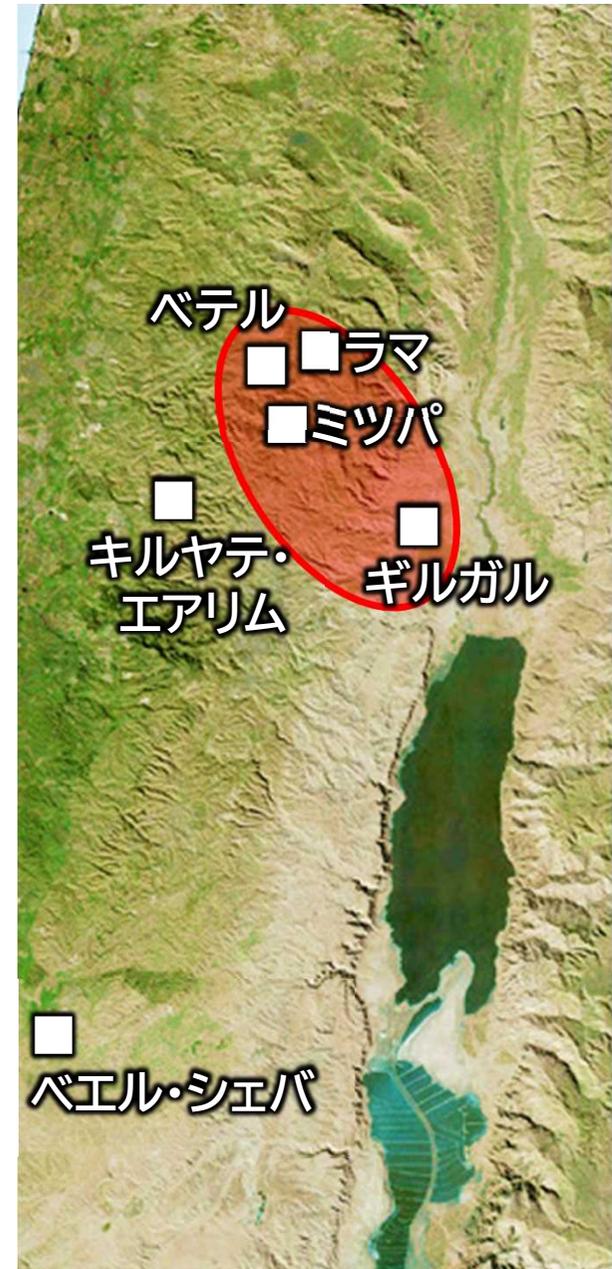
サムエルは、年老いたとき、息子たちをイスラエルのさばきつかさとして任命した。

長男の名はヨエル*、次男の名はアビヤ*であった。彼らはベエル・シェバ*でさばきつかさをしていた。しかし、この息子たちは父の道に歩まず、利得を追い求め、賄賂を受け取り、さばきを曲げていた。

*ヨエル…「主は神」 アビヤ…「主は私の父」

*アブラハム、イサクが住んだ南部の要衝の地。
ユダ族の相続地。

■サムエルは、息子たちの不法を知らなかった？



【長老たちの要望】 I サムエル8:4~6

イスラエルの長老たちはみな集まり、ラマにいるサムエルのところにやって来て、彼に言った。

「ご覧ください。あなたはお年を召し、ご子息たちはあなたの道を歩んでいません。どうか今、ほかのすべての国民のように、**私たちをさばく王を立ててください。**」

彼らが、「私たちをさばく王を私たちに与えてください」と言ったとき、そのことばはサムエルの目には悪しきことであった。それでサムエルは【主】に祈った。

- サムエルの高齡も息子たちの不法も口実にすぎない。共謀した長老たちに、サムエルは悪意を感じた。



【主の命令】 I サムエル8:7

【主】はサムエルに言われた。「民があなたに言うことは何であれ、それを聞き入れよ。なぜなら彼らは、あなたを拒んだのではなく、わたしが王として彼らを治めることを拒んだのだから。」

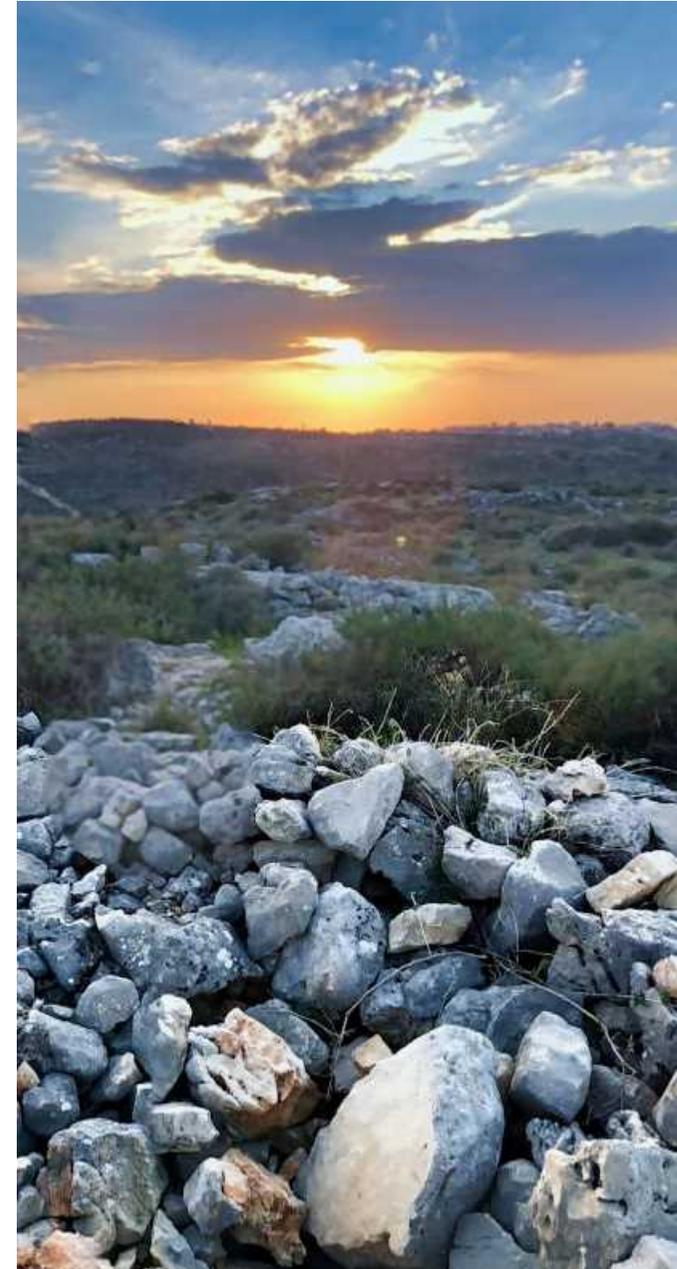
* 民は、神を王として結んだ律法をも拒んだ。

➡ 王を求めた動機の根っこは、不信仰。

■ 御心ではないが、主は受け入れられた。

➡ 「許容的御心」

“痛い目に遭わなければ分からない”



【主の宣告】 Iサムエル8:8~9

「わたしが彼らをエジプトから連れ上った日から今日に至るまで、彼らのしたことといえば、わたしを捨てて、ほかの神々に仕えることだった。そのように彼らは、あなたにもしているのだ。

今、彼らの声を聞き入れよ。ただし、彼らに自分たちを治める王の権利をはっきりと宣言せよ。」

* 民が王を求めた本質は、偶像礼拝と同じ。

➡ 神が立てた士師サムエルを拒み、
自分たちの要望に叶う王を求めた。

■ 建前の裏で、己の要望を優先させていないか？



【主の宣告】 I サムエル8:10~18

■王がイスラエルの民に求めること

- ①民を兵士や軍の労務者として徴用する。
- ②娘たちを王宮の奉仕者として徴用する。
- ③民の良い畑が没収され、王の家来に与えられる。
- ④作物の十分の一が家臣のために徴収される。
- ⑤奴隷や家畜を提供させられる。
- ⑥羊の群れの十分の一が取り上げられる。
- ⑦王の奴隷となる。

8:18 その日、あなたがたが自分たちのために選んだ王のゆえに泣き叫んでも、その日、【主】はあなたがたに答えはしない。」



暴君が現れても
主は放置される

【倒錯した民の願い】 I サムエル8:19~22

しかし民は拒んで、サムエルの言うことを聞こうとしなかった。そして言った。「いや。どうしても、私たちの上には王が必要です。そうすれば私たちもまた、ほかのすべての国民のようになり、王が私たちをさばき、私たちの先に立って出陣し、私たちの戦いを戦ってくれるでしょう。」

サムエルは、民のすべてのことばを聞いて、それを【主】の耳に入れた。【主】はサムエルに言われた。「彼らの言うことを聞き、彼らのために王を立てよ。」それで、サムエルはイスラエルの人々に「それぞれ自分の町に帰りなさい」と言った。

- 偶像礼拝者ようになりたい!! ➡ 不信仰の極みの倒錯。
例) ノンクリスチャンのように日曜日に遊びたい。



主は聞き
入れられた



Ⅱ. サウルとサムエル

I サムエル記9章

ベニヤミンの山々

【ベニヤミン人サウル】 I サムエル9:1~2

ベニヤミン人*で、その名をキシユという人がいた。キシユはアビエルの子で、アビエルはツェロルの子、ツェロルはベコラテの子、ベコラテはベニヤミン人アフィアハの子であった。彼は有力者であった。

キシユには一人の息子がいて、その名をサウル*といった。彼は美しい若者で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった。

*ヤコブの末子ベニヤミンの子孫。

士師の時代初期、大罪により裁かれ滅亡寸前に。
士師エフデを輩出。勇壮な民として知られる。

*サウル …“待望の”“望ましい”



【雌ろばを探すサウル】 I サムエル9:3~4

あるとき、サウルの父キシユの雌ろば数頭がいなくなったので、キシユは息子サウルに言った。「しもべを一人連れて、雌ろばを捜しに行ってくれ。」

サウルはエフライムの山地を巡り、シャリシャの地を巡り歩いたが、それらは見つからなかった。さらに、シャアリムの地を巡り歩いたが、いなかった。ベニヤミン人の地を巡り歩いても、見つからなかった。

■ 律法の基準では、父への従順は神への従順。

➡ ヨセフのように素直で従順なサウルの側面。

結構な損害



【ラマへ】 I サムエル9:5

二人がツフの地にやって来たとき、サウルは一緒にいたしもべに言った。「さあ、もう帰ろう。父が雌ろばのことはさておき、私たちのほうを心配し始めるといけないから。」

すると、しもべは言った。「ご覧ください。この町には神の人がいます。この人は敬われている人です。この人の言うことはみな、必ず実現します。今そこへ参りましょう。私たちが行く道を教えてくれるかもしれません。」

■ サムエルの住むラマまでやってきたサウル。



【しもべの提案】 I サムエル9:7~9

サウルはしもべに言った。「もし行くとすると、その人に何を持って行こうか。私たちの袋には、パンもなくなつたし、神の人に持って行く贈り物もない。何かあるか。」

しもべは再びサウルに答えた。「ご覧ください。私の手に四分の一シェケル(約2,8g)の銀があります。これを神の人に差し上げたら、私たちの行く道を教えてください。」

昔イスラエルでは、神のみこころを求めに行く人は「さあ、**予見者***のところへ行こう」とよく言っていた。今の預言者は、昔は予見者と呼ばれていたからである。

*予見者 …“見る者” 「預言者」より世俗的?!



現在の銀相場
1g = 108円

1/4シェケル
= 約300円?!

スケール小さすぎ!!

【娘たち】 I サムエル9:10~13

サウルはしもべに言った。「それはよい。さあ、行こう。」こうして、彼らは神の人のいる町へ行った。彼らがその町への坂道を上って行くと、水を汲みに出て来た娘たちに出会った。彼らは「予見者はここにおられますか」と尋ねた。

すると娘たちは答えて言った。「はい。この先におられます。さあ、急いでください。今日、町に来られました。今日、**高き所***で民のためにいけにえをお献げになりますから。

町に入ると、あの方が見つかるでしょう。あの方が食事のために高き所に上られる前に。民は、あの方が来られるまで食事をしません。あの方がいけにえを祝福して、その後で、招かれた者たちが食事をすることになっているからです。今、上って行ってください。あの方は、すぐに見つかるでしょう。」

***高き所 …祭壇。 サムエルは祭司を伴っていただろう。**

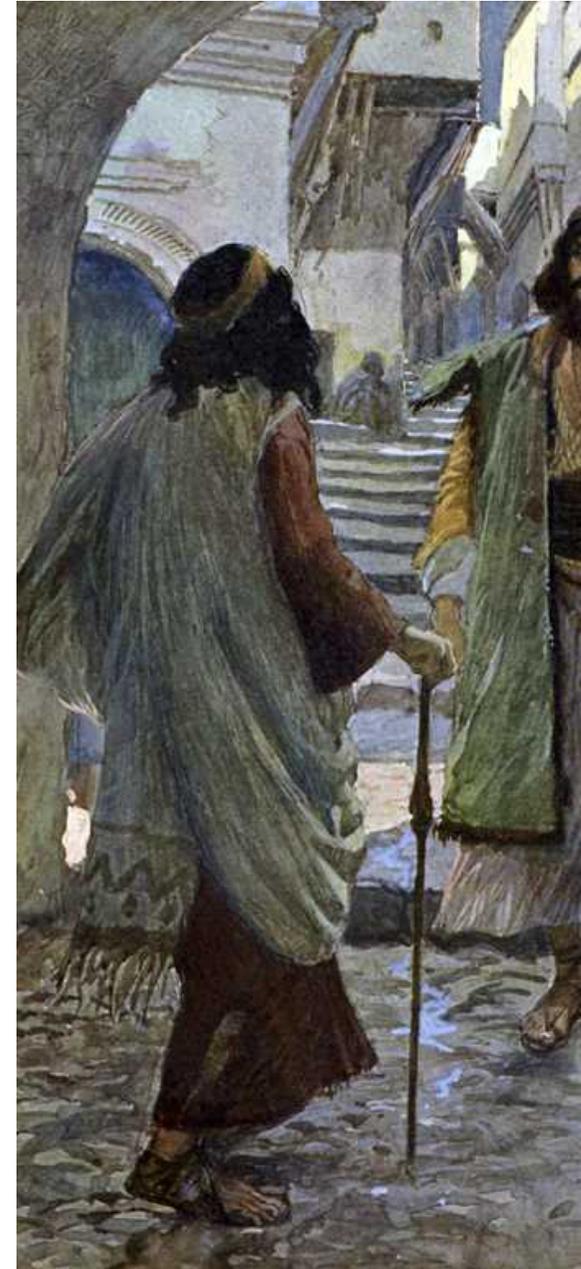


【サムエルへの主のみ告げ】 I サムエル9:14~17

彼らが町へ上って行き、町に入りかかったとき、ちょうどサムエルが、高き所に上ろうとして彼らの方に向かって出て来た。【主】は、サウルが来る前の日に、サムエルの耳を開いて告げておられた。

「明日の今ごろ、わたしはある人をベニヤミンの地からあなたのところに遣わす。あなたはその人に油を注ぎ、わたしの民イスラエルの君主とせよ。彼はわたしの民をペリシテ人の手から救う。民の叫びがわたしに届き、わたしが自分の民に目を留めたからだ。」

サムエルがサウルを見るやいなや、【主】は彼に告げられた。「さあ、わたしがあなたに話した者だ。この者がわたしの民を支配するのだ。」



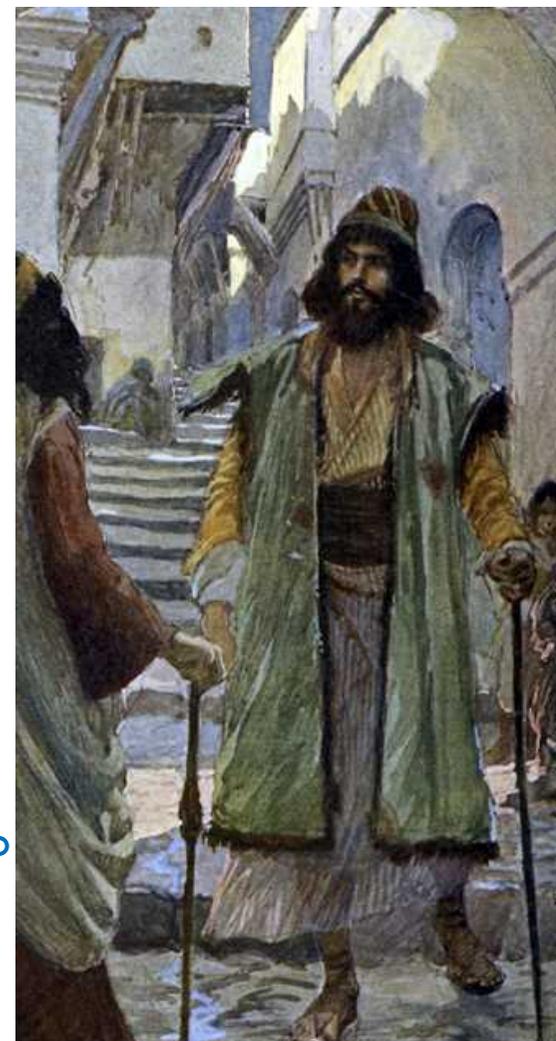
【サウルとサムエル】 I サムエル9:18~20

サウルは、門の中でサムエルに近づいて、言った。「予見者の家はどこですか。教えてください。」

サムエルはサウルに答えた。「私が予見者です。私より先に高き所に上りなさい。今日、あなたがたは私と一緒に食事をするのです。明日の朝、私があなたを送ります。あなたの心にあるすべてのことについて、話しましょう。」

三日前にいなくなったあなたの雌ろばについては、もう気にかけないようにしてください。見つかっていますから。全イスラエルの思いは、だれに向けられているのでしょうか。あなたと、あなたの父の全家にではありませんか。」

- サウルの霊的感性の低さ。
- 対照的に、神の重大な宣告を告げるサムエル。



両者の間の
ギャップの大きさ!!

【祝宴】 I サムエル9:21～24

サウルは答えて言った。「私はベニヤミン人で、イスラエルの最も小さい部族の出ではありませんか。私の家族は、ベニヤミンの部族のどの家族よりも、取るに足りないものではありませんか。どうしてこのようなことを私に言われるのですか。」

サムエルはサウルとそのしもべを広間に連れて来て、三十人ほどの招かれた人たちの上座に着かせた。

サムエルは料理人に、「取っておくようにと渡しておいた、ごちそうを出しなさい」と言った。料理人は、もも肉とその上にある部分*を取り出し、サウルの前に置いた。サムエルは言った。「これはあなたのために取っておいたものです。あなたの前に置いて、食べてください。その肉は、私が民を招いたと言って、この定められた時のため、あなたのために取り分けておいたものですから。」その日、サウルはサムエルと一緒に食事をした。



低い自己評価

祭司のための
最上の部分

【サウルに教えるサムエル】 I サムエル9:25~27

彼らは高き所から町に下って来た。それからサムエルはサウルと屋上で話をした。彼らは朝早く起きた。夜が明けかかると、サムエルは、屋上にいるサウルに叫んだ。「起きてください。あなたを送りましょう。」サウルは起きて、サムエルと二人で外に出た。

二人が町外れへと下っていたとき、サムエルがサウルに「しもべに、私たちより先に行くように言ってください」と言ったので、しもべは先に行った。「あなたは、ここにしばらくとどまってください。神のことばをお聞かせしますから。」

■ 律法に基づきイスラエルの王の定めを教えたサムエル





Ⅲ. サウルの油注ぎ

I サムエル記10章

ギルガルの荒野

【油注ぎ】 I サムエル10:1

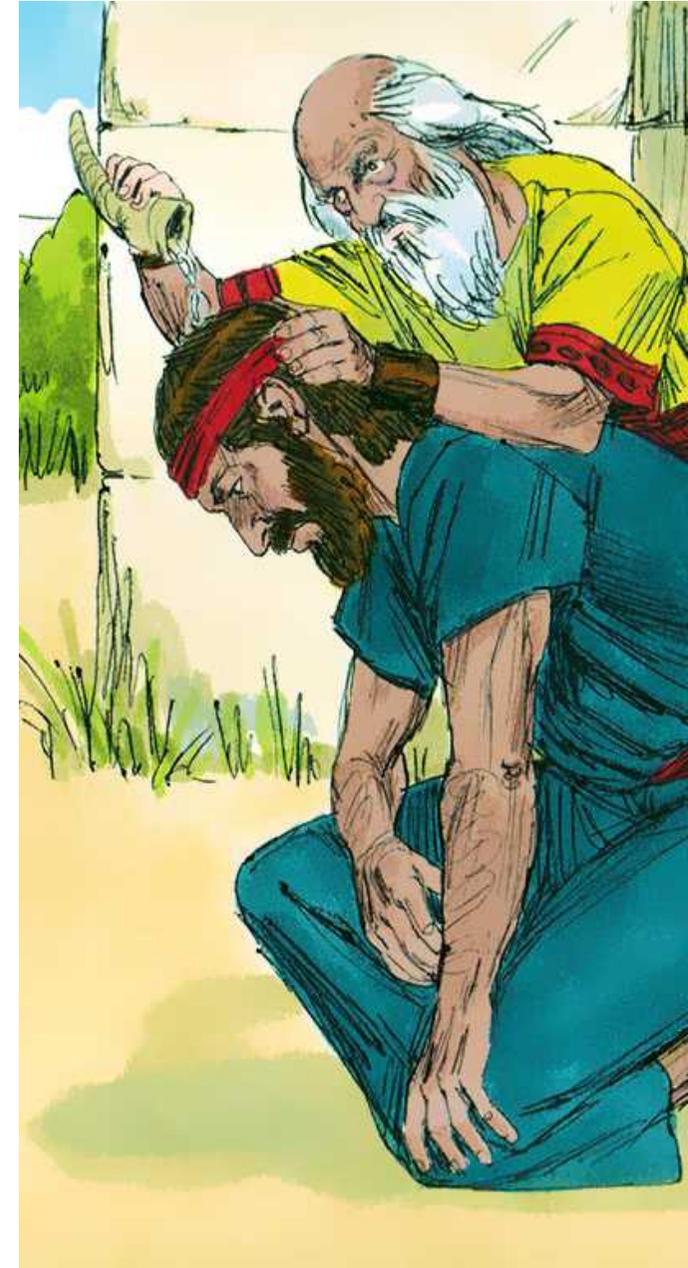
サムエルは油の壺を取ってサウルの頭に注ぎ*、彼に口づけして言った。「【主】が、ご自分のゆずりの地と民を治める君主とするため、あなたに油を注がれたのではありませんか。」

*油注ぎ …聖別の儀式。ここでは王権の授与。

■ サウルは、神によって特別にきよめられ、イスラエルの王とされた。

■ 油注ぎ →メシア(キリスト)の語源。

聖別された究極の王が、主イエス・キリスト



【3つのしるし】 I サムエル10:1

- 始祖の母ラケルの墓のそばで、二人の人から雌ろばが見つかり、父が心配していくことを聞く。
 - タボルの櫛の木で、①ヤギを3匹連れた人、②輪型パン3つを持った人。③ぶどう酒の革袋1つをもった人の三人に出会い、パンを二つもらう。
 - ペリシテに支配されたギブア・エロヒムで、預言者の一団と出会い、サウルに神の霊が激しく降る。
- 10:6 【主】の霊があなたの上に激しく下り、あなたも彼らと一緒に預言して、新しい人に変えられます。

➡サウルのための詳細なしるしは、歴史的背景を彷彿!!



証人は二人から

デボラの櫛の木?

ベニヤミンの
聖絶を招いた
暴虐の町
ギブア?!

【】 I サムエル10:7~9

これらのしるしがあなたに起こったら、自分の力でできることをしなさい。神があなたとともにおられるのですから。私より先に**ギルガル***に下って行きなさい。私も全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げるために、あなたのところへ下って行きます。私があなたのところに着くまで、そこで**七日間待たなければなりません**。それからあなたがなすべきことを教えます。」

サウルがサムエルから去って行こうと背を向けたとき、神はサウルに**新しい心**を与えられた。これらすべてのしるしは、その日のうちに起こった。

*エリコ攻略前に、ヨシュアが宿営した地。



【預言するサウル】 I サムエル10:10~12

彼らがそこからギブアに行くと、見よ、預言者の一団が彼の方にやって来た。すると、神の霊が彼の上に激しく下り、彼も彼らの間で預言した。

以前からサウルを知っている人たちはみな、彼が預言者たちと一緒に預言しているのを見た。民は互いに言った。「キシユの息子は、いったいどうしたことか。サウルも預言者の一人なのか。*」

そこにいた一人も、これに応じて、「彼らの父はだれだろう」と言った。こういうわけで、「サウルも預言者の一人なのか」ということが、語りぐさになった。

* 人々がサウルの新生体験の目撃者となった。



【帰宅したサウル】 I サムエル10:13~16

サウルは預言を終えて、高き所*に帰って来た。サウルのおじ*は、彼とそのしもべに言った。「どこに行っていたのか。」サウルは言った。「雌ろばを捜しにです。どこにもいないと分かったので、サムエルのところに行ってきました。」

サウルのおじは言った。「サムエルはあなたがたに何と言ったか、私に話してくれ。」

サウルはおじに言った。「雌ろばは見つかっていると、はっきり私たちに知らせてくれました。」しかし、サムエルが語った王位のことについては、おじに話さなかった。

*サウルにとっての“高き所”？ そこかしこに祭壇が!!

*なぜ父でなくおじが？ 有名人？ ミクロテ?(I 歴9:38)

*沈黙して時を待ったサウル



【サムエルの告発】 I サムエル10:17~19

サムエルはミツパで、民を【主】のもとに呼び集め、イスラエル人に言った。「イスラエルの神、【主】はこう言われる。『イスラエルをエジプトから連れ上り、あなたがたを、エジプトの手と、あなたがたを圧迫していたすべての王国の手から救い出したのは、このわたしだ。』しかし、あなたがたは今日、すべてのわざわいと苦しみからあなたがたを救ってくださる、あなたがたの神を退けて、『いや、私たちの上に王を立ててください』と言った。今、部族ごと、分団ごとに、【主】の前に出なさい。」

■イスラエルを救われたのは神。神を退けたのは民。



【選出されたサウル】 I サムエル10:20～23

サムエルは、イスラエルの全部族を近づかせた。すると、ベニヤミンの部族がくじで取り分けられた。

そして、ベニヤミンの部族を、その氏族ごとに近づかせた。すると、マテリの氏族がくじで取り分けられた。そして、キシユの息子サウルがくじで取り分けられた。人々はサウルを捜したが、見つからなかった。

人々はさらに、【主】に「あの人はもう、ここに来ているのですか」と尋ねた。【主】は「見よ、彼は荷物の間に隠れている」と言われた。彼らは走って行って、そこから彼を連れて来た。サウルが民の中に立つと、民のだれよりも、肩から上だけ高かった。



【王として立てられたサウル】 I サムエル10:24~27

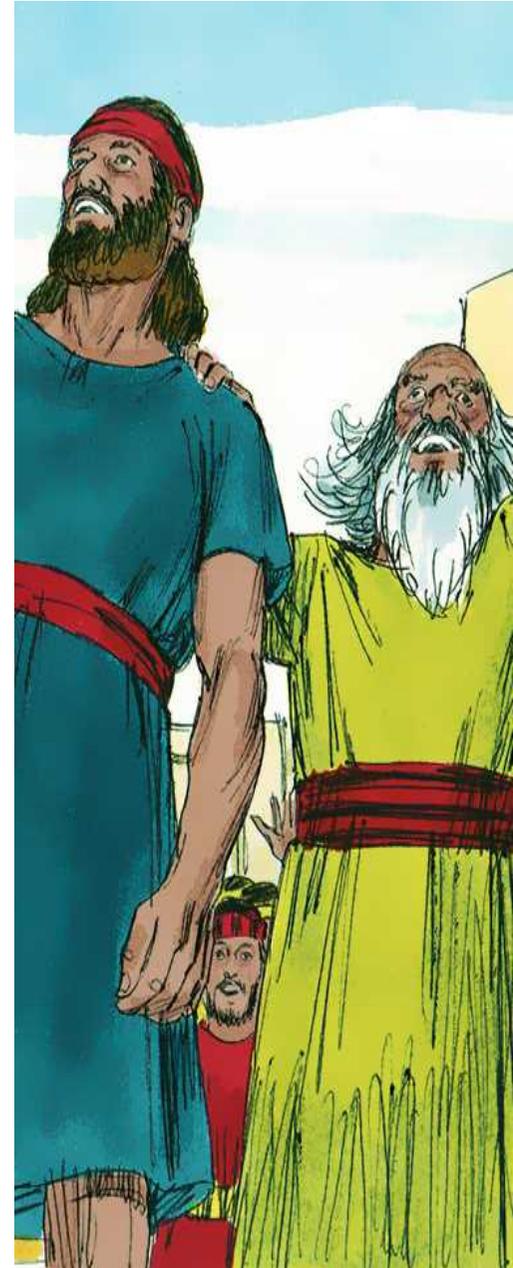
サムエルは民全体に言った。「【主】がお選びになったこの人を見なさい。民全体のうちに、彼のような者はいない。」民はみな、大声で叫んで、「王様万歳」と言った。

サムエルは民に王権の定めについて語り、それを文書に記して【主】の前に納めた。***それから、サムエルは民をみな、それぞれ自分の家へ帰した。**

サウルもギブアの自分の家へ帰って行った。神に心を動かされた勇者たちは、彼について行った。

しかし、よこしまな者たちは、「こいつがどうしてわれわれを救えるのか」と言って軽蔑し、彼に贈り物を持って来なかった。しかし彼は黙っていた。

***律法で定められた行為(申17:18~19)**





IV. まとめと適用 主の選びに応じて踏み出せ

ベニヤミンの荒野

【主が選ばれた、サウルの素の姿が教えてくれること】

- 誰よりも背が高く、美男子だった。見てくれは最高!!
- 父の雌ろばを素直に探す、従順さ。
- サムエルに献げた1/4シェケルに象徴される、器の小ささ。
- この人がサムエルと気づかない、霊的感性の低さ。
- 選び出されても、荷物の影に隠れている、小心。臆病さ。

はたして私たちは、サウルを笑えるだろうか？

【神の選びの基準を確認しよう】

■聖書が教える神のイスラエルの選びの基準

申命記7:7~8 【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。しかし、【主】があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、【主】は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。

■神は、イスラエルを愛され、アブラハムとの契約ゆえに救い出された。

➡約束に基づく神の一方的な恵みこそ、私たちの救いの礎。

【何者でもない私に、主が目をとめ、用いられる】

- 老いたアブラハムにモーセ、少年サムエル、そしてサウル。
主が立てられ、用いられたのは、何者でもない小さな一人。
- 自己評価の低さ、自己肯定感の弱さ、過去の傷、大きな失敗…。
しかし、主にとっては、何一つ関係ないものだと教えられる。
- 主の前に告白しよう。「私には何もありません。私にはできません。
しかし、主が助けてくださるならば、できないことはありません。」と。
- 福音を信じて新生した身であるならば、あとはただ、主に委ねて
歩み出すだけだ。主が見ておられる。物陰から外へ、踏み出そう。

詩篇8篇

指揮者のために。ギテトの調べにのせて。ダビデの賛歌。

8:1 【主】よ私たちの主よ あなたの御名は全地にわたり
なんと力に満ちていることでしょう。
あなたのご威光は 天でたたえられています。

8:2 幼子たち乳飲み子たちの口を通して
あなたは御力を打ち立てられました。
あなたに敵対する者に応えるため 復讐する敵を鎮めるために。

8:3 あなたの指のわざであるあなたの天
あなたが整えられた月や星を見るに

8:4 人とは何もののなのでしょう。あなたが心に留められるとは。
人の子とはいったい何もののなのでしょう。
あなたが顧みてくださるとは。

詩篇8篇

8:5 あなたは人を御使いより わずかに欠けがあるものとし
これに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。

8:6 あなたの御手のわざを人に治めさせ
万物を彼の足の下に置かれました。

8:7 羊も牛もすべてまた野の獣も

8:8 空の鳥海の魚海路を通うものも。

8:9 【主】よ私たちの主よ

あなたの御名は全地にわたり なんと力に満ちていることでしょう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

あなたが、一方的(いっぽうてき)にわたしをえらび、

救(すく)いだして くださいました。

おどろくべき めぐみを、身(み)をもって味(あじ)わわせてください。

わたしの ねがいではなく、

主の思(おも)いこそが この身(み)になりますように。

御霊(みたま)で満(み)たし、ここから遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」